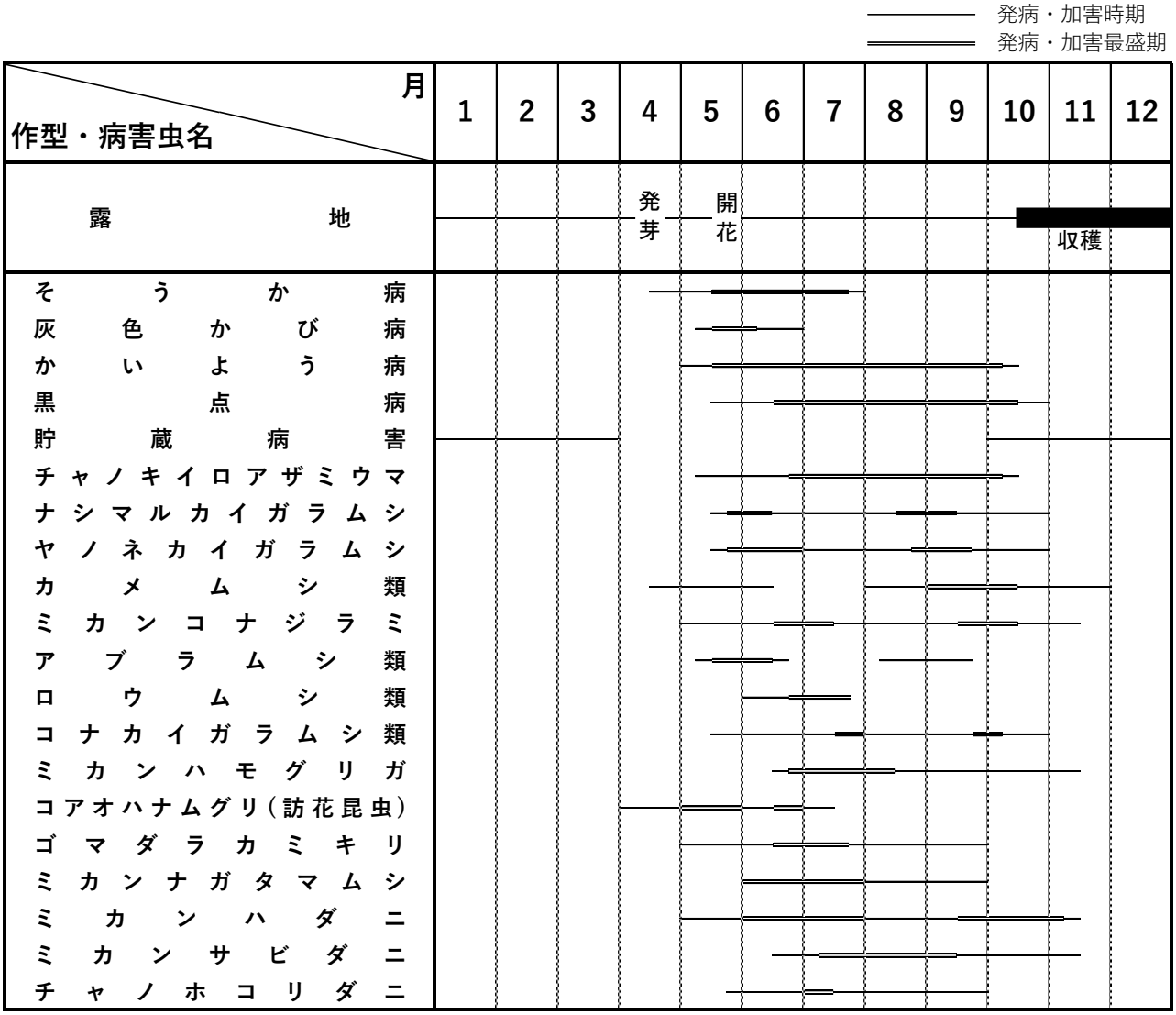
みかん・かんきつ

「みかん」は、農薬取締法では温州みかん、紀州みかんを指し、中グループの「かんきつ」に含まれる。

「かんきつ」に適用のある農薬は、温州みかんにも、その他のかんきつにも使用できる。かんきつで使用基準が異なる場合は、「みかん」「なつみかん」「かんきつ(除みかん)」等と表記している。

外果皮を使用する場合は「かんきつ」に適用のある農薬を使用すること。



そうか病

留意事項

1 幼木に発病が多い。

2 降雨時間が長いと発病が多い。

3 前年度の発生状況を考え、予防散布に重点を置く。

4 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

努める。

防除方法

1 被害葉・越冬り病葉は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
2 チッソ質肥料の過用を避ける。
3 排水、通風を良好にする。
4 前年に多発した園は、4月中旬（新芽が数㎜伸びた時期）に下記の薬剤を散布する。

・ベルクート水和剤 ＜Ｍ７＞
【みかん　1000～2000倍　前日／3回】
【かんきつ（除みかん）　2000倍　前日／2回】
・デランフロアブル 劇 ＜Ｍ９＞【かんきつ　1000倍　30日／3回】
・フロンサイドSC ＜２９＞【かんきつ　2000～2500倍　30日／1回】

5 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ゲッター水和剤 ＜１＞ ＜１０＞
【みかん　1000～1500倍　7日／5回】
【かんきつ（除みかん）　1500倍　21日／5回】
・ナティーボフロアブル ＜３＞ ≪１１≫【かんきつ 1500～2000倍　前日／3回】
・セルカディスDフロアブル 劇 ＜Ｍ９＞ ≪７≫
【かんきつ　1000～1500倍　30日／3回】
・ロンセラーフロアブル ≪７≫【かんきつ　3000倍　前日／3回】

灰色かび病

留意事項

1 多雨、多湿条件下で発生が多い。
2 開花期から落弁期に発生すると傷果の原因となる。
3 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 園内の通風及び樹冠内への日照を良好にする。
2 発生が見込まれる時期に下記の薬剤を散布する。

・ベルクート水和剤 ＜Ｍ７＞
【みかん　1000～2000倍　前日／3回】
【かんきつ（除みかん）　2000倍　前日／2回】

3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【かんきつ　2000～3000倍　14日／3回】
・ナティーボフロアブル ＜３＞ ≪１１≫【かんきつ 1500～2000倍　前日／3回】
・フルーツセイバー ≪７≫【かんきつ　1500～2000倍　前日／3回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・セルカディスDフロアブル 劇 ＜Ｍ９＞ ≪７≫
【かんきつ　1000～1500倍　30日／3回】
・ロンセラーフロアブル ≪７≫【かんきつ　3000倍　前日／3回】

かいよう病

留意事項

1 風当たりの強い園や台風後に発生が多い。
2 ミカンハモグリガの食害痕などから多く発生する。
3 ICボルドー66Dは新梢伸長期に散布すると石灰による葉焼けを生じる恐れがあるので使用を避ける。また、梅雨明け以降の高温時散布は薬害を生じる恐れがあるので使用を避ける。
4 カスミンボルドーを散布する時には、薬害軽減のためクレフノン（200倍　ー／ー）を加用する。

防除方法

1 防風林、防風垣を設置する。
2 新植時には無病苗を用いる。
3 チッソ質肥料の過用を避ける。
4 被害葉・被害枝は早期に除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
5 ミカンハモグリガの防除に努める。
6 り病性かんきつ類（レモン、なつみかん、ネーブル等）との混植を避ける。
7 発芽前に発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・ICボルドー66D ＜Ｍ１＞【かんきつ　25～200倍　発病前～発病初期／ー】
・カスミンボルドー ＜Ｍ１＞ ＜２４＞
【みかん　1000倍　7日／5回】
【かんきつ（除みかん）　1000倍　45日／5回】
8 春梢伸長期、夏秋梢伸長期（台風後）に発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・バリダシン液剤5 ＜Ｕ１８＞ 【かんきつ　500倍　7日／4回】

黒点病

留意事項

1 6月～10月に降雨が多いと発生が多い。
2 老木や管理不良園で発病が多い。
3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤には、展着剤を加用しない方がよい。
4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤はボルドーとの混用や近接散布は避ける。
5 収穫60日前までの散布剤については散布時期に特に注意する。（早生温州）
6 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤は、かぶれに注意する。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

7 QoI剤≪１１≫、SDHI剤≪７≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

8 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は4回以内。

防除方法

1 枯枝をせん定しほ場外に持ち出し処分する。

2 寒害、日焼、風害などによって枯枝ができないように注意する。

3 発生が見込まれる時期（梅雨期、秋雨期）に下記の薬剤を散布する。降雨が多い場合は散布回数を増やす。

・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 ＜Ｍ３＞
【みかん　400～800倍　30日／4回】
【かんきつ（除みかん）　600～800倍　90日／4回】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・ストロビードライフロアブル ≪１１≫【かんきつ　2000～3000倍　14日／3回】
・ナティーボフロアブル ＜３＞ ≪１１≫【かんきつ　1500～2000倍　前日／3回】
・セルカディスDフロアブル 劇 ＜Ｍ９＞ ≪７≫
【かんきつ　1000～1500倍　30日／3回】

貯蔵病害

留意事項

1 QoI剤≪１１≫は耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

1 収穫時果実に傷をつけないように注意する。

2 庫内温度は5℃前後、湿度は80～90%にして貯蔵する。

3 貯蔵果の点検はたびたび行い、腐敗果を取り除き伝染を防ぐ。

4 軸腐病は、枯枝を除去するとともに黒点病防除に努める。

5 収穫前に下記の薬剤を散布する。

・ベンレート水和剤 ＜１＞
【みかん　青かび病、緑かび病、軸腐病、炭疽病、黒斑病　4000～6000倍　前日／4回】
【かんきつ（除みかん）　青かび病、緑かび病、軸腐病、炭疽病、黒斑病　4000～6000倍　前日／2回】
【みかん　白かび病　4000倍　前日／4回】
【かんきつ（除みかん）　白かび病　4000倍　前日／2回】

・ベルクートフロアブル ＜Ｍ７＞
【みかん　青かび病、緑かび病、白かび病、黒腐病　1000～2000倍　前日／3回】
【かんきつ(除みかん)　青かび病、緑かび病、白かび病、黒腐病　1000～2000倍　前

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

日／2回】
【みかん　軸腐病　1000倍　前日／3回】
【かんきつ(除みかん)　軸腐病　1000倍　前日／2回】
・ナティーボフロアブル ＜３＞ ≪１１≫
【かんきつ　青かび病、緑かび病　1500倍　前日／3回】

チャノキイロアザミウマ

留意事項

1 イヌマキ、サンゴジュ、かき、ぶどう、茶などにも発生する。
2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞
【かんきつ　アザミウマ類　2000～4000倍　14日／3回】
・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【かんきつ　3000倍　前日／3回】
・ハチハチフロアブル 劇 ＜２１Ａ＞
【かんきつ　アザミウマ類　1000～2000倍　前日／2回】
・エクシレルSE ＜２８＞【かんきつ　アザミウマ類　5000倍　前日／3回】

ナシマルカイガラムシ

留意事項

1 以前はサンホーゼカイガラムシと呼ばれた。
2 幼虫で越冬する。越冬期のマシン油剤による防除効果は高い。
3 樹幹や枝に寄生することが多いので、葉や果実だけでなく、これらの部分にも十分薬液がかかるように散布する。
4 越冬期のマシン油剤は樹勢が弱っている場合は薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。

防除方法

1 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
【マシン油剤　成分95%】
・機械油乳剤95、マシン油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ､その他のカイガラムシ　30～45倍　冬期／ー】
【マシン油剤　成分97%】
・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　冬期(12月～3月)／ー】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

・スプレーオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類　50～80倍
12月～3月／－】
・アタックオイル、トモノールS ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　12月～3月／－】
2 第1世代（5月下旬～6月中旬）と第2世代（8月上～中旬）の幼虫発生期に下記の薬剤を散布する。
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　2000～4000倍　14日／3回】
・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　1000～2000倍　前日／3回】
・エルサン乳剤 劇 ＜１Ｂ＞
【かんきつ　カイガラムシ類(除ヤノネカイガラムシ)　1000倍　14日／2回】

ヤノネカイガラムシ

留意事項

1 アプロードフロアブルは天敵への影響が少ない。
2 アプロードフロアブルは老齢幼虫には効果が低いので、若齢幼虫発生期（5月下旬、8月中旬）に散布する。
3 樹勢が弱っている場合は、越冬期のマシン油剤は薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。

防除方法

1 ヤノネカイガラムシの天敵（ヤノネツヤコバチ、ヤノネキイロコバチ）を保護する。
2 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
【マシン油剤　成分95%】
・機械油乳剤95、マシン油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ　30～45倍　冬期／－】
【マシン油剤　成分97%】
・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　冬期(12月～3月)／－】
・スプレーオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類　50～80倍
12月～3月／－】
・アタックオイル、トモノールS ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　12月～3月／－】
3 第1世代幼虫発生期（5月下旬～6月下旬）及び第2世代幼虫発生期（8月中旬～9月

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

上旬）に下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤　＜４Ａ＞
【かんきつ　2000倍　前日／3回】

・トランスフォームフロアブル　＜４Ｃ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　1000～2000倍　前日／3回】

・エルサン乳剤　劇　＜１Ｂ＞【かんきつ　1000～1500倍　14日／2回】

・アプロードフロアブル　＜１６＞
【みかん　カイガラムシ類幼虫　1000倍　14日／3回】
【かんきつ（除みかん）　カイガラムシ類幼虫　1000倍　45日／3回】

カメムシ類

留意事項

1 発生量や加害時期は年により変動するので、園内への飛来状況に応じて防除する。
2 ピレスロイド剤＜３Ａ＞を連用するとハダニ類、カイガラムシ類等の密度が高くなるので注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤　＜４Ａ＞
【かんきつ　2000倍　前日／3回】

・スミチオン乳剤　＜１Ｂ＞
【みかん　1000倍　14日／5回】
【かんきつ（除みかん）　1000倍　14日／3回】

・アディオン乳剤　＜３Ａ＞【かんきつ　2000倍　14日／6回】

ミカンコナジラミ

留意事項

1 薬液は葉裏に十分かかるように散布する。

防除方法

1 日当たりや風通しの悪いところで発生しやすいので、密植園の間伐やせん定を十分行い通風、採光をよくする。
2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤　劇　＜４Ａ＞【かんきつ　コナジラミ類　4000倍　14日／3回】

・ダントツ水溶剤　＜４Ａ＞【かんきつ　コナジラミ類　2000～4000倍　前日／3回】

・エルサン乳剤　劇　＜１Ｂ＞【かんきつ　1000倍　14日／2回】

アブラムシ類

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

留意事項

1 発生初期（5月～6月）の防除に重点を置く。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【かんきつ　2000～4000倍　14日／3回】
・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞【かんきつ　4000倍　前日／3回】
・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞【かんきつ　2000倍　前日／3回】
・ロディー乳剤 劇 ＜３Ａ＞【かんきつ　2000倍　7日／4回】

ロウムシ類

留意事項

1 ルビーロウムシの天敵寄生蜂としてルビーアカヤドリコバチがいる。

防除方法

1 幼虫発生期（7月上～中旬）に下記の薬剤を散布する。

・アクタラ顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞【かんきつ　2000倍　14日／3回】

コナカイガラムシ類

留意事項

1 樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤散布で薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。
2 日当たり、風通しの悪い密植園や枝葉の混みあったところで多く発生する。
3 多発すると虫の排泄物により、すす病が発生し果実が黒く汚れる。

防除方法

1 発生の多い園では越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。

【マシン油剤　成分95%】
・機械油乳剤95、マシン油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ　30～45倍　冬期／ー】
【マシン油剤　成分97%】
・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　冬期(12月～3月)／ー】
・スプレーオイル ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ヤノネカイガラムシ、その他のカイガラムシ類　50～80倍　12月～3月／ー】
・アタックオイル、トモノールS ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　60～80倍　12月～3月／ー】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

2 第1世代幼虫期（6月中～下旬）と第2世代幼虫期（8月中旬～9月上旬）に下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　2000～4000倍　14日／3回】

・コルト顆粒水和剤 ＜９Ｂ＞
【かんきつ　カイガラムシ類(除アカマルカイガラムシ)　2000～3000倍　前日／3回】

・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞
【かんきつ　カイガラムシ類　1000～2000倍　前日／3回】

・アプロードフロアブル ＜１６＞
【みかん　カイガラムシ類幼虫　1000倍　14日／3回】
【かんきつ（除みかん）　カイガラムシ類幼虫　1000倍　45日／3回】

ミカンハモグリガ

留意事項

1 夏・秋期に発生が多く、幼木に被害が多い。
2 発生が多いと、かいよう病を誘発する。
3 新梢、新葉を中心に散布すると効果的である。
4 アディオン乳剤は、散布後にハダニ類が発生しやすいので注意する。

防除方法

1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・アディオン乳剤 ＜３Ａ＞【かんきつ　2000～4000倍　14日／6回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【かんきつ　2000～4000倍　前日／3回】
・エクシレルSE ＜２８＞【かんきつ　5000倍　前日／3回】
・ロディー乳剤 劇 ＜３Ａ＞【かんきつ　2000倍　7日／4回】
・ノーモルト乳剤 ＜１５＞【みかん、なつみかん　1000～2000倍　21日／3回】

コアオハナムグリ（訪花昆虫）

防除方法

1 開花初期～盛期（5月上～中旬）に発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スタークル顆粒水溶剤、アルバリン顆粒水溶剤 ＜４Ａ＞
【かんきつ　2000倍　前日／3回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞【かんきつ　2000～4000倍　14日／3回】
・エクシレルSE ＜２８＞【かんきつ　5000倍　前日／3回】
・ロディー乳剤 劇 ＜３Ａ＞【かんきつ　2000倍　7日／4回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

ゴマダラカミキリ

留意事項

1 バイオリサ・カミキリは昆虫病原性糸状菌を製剤化した殺虫剤で、カミキリムシ成虫に殺虫効果を示す。殺虫効果は約30日間持続するが、降雨、殺菌剤、ナメクジ類などの影響で短くなる場合があるので注意する。
2 ガットサイドS、トラサイドA乳剤、モスピラン顆粒水溶剤(200～400倍)は、薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。
3 少発生時には、耕種的防除法が効果的である。
4 モスピラン顆粒水溶剤は2000～4000倍の散布と、200～400倍液の散布を合わせて3回以内。
5 園芸用キンチョールEを使用する場合、逆流した薬液が収穫物にかからないように注意する。
6 ガットサイドSとトラサイドA乳剤の成分MEPの樹幹処理は1回以内。

防除方法

1 成虫は見つけ次第捕殺する。
2 産卵を防ぐために幹の地際部にネットを巻きつける。
3 成虫発生初期（5月下旬～6月中旬）に下記の薬剤を地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。

・バイオリサ･カミキリ ＜－＞
【果樹類　カミキリムシ類　1本／1樹　成虫発生初期／－】

4 成虫の発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞
【かんきつ　ゴマダラカミキリ成虫　2000～4000倍　14日／3回】
・ダントツ水溶剤 ＜４Ａ＞【かんきつ　2000～4000倍　前日／3回】
・トランスフォームフロアブル ＜４Ｃ＞
【かんきつ　ゴマダラカミキリ成虫　2000倍　前日／3回】

5 6～7月に下記の薬剤を塗布または散布する。

・ガットサイドS ＜１Ｂ＞
【みかん　カミキリムシ類　1(原液)～1.5倍　樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布　6月～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(収穫90日)／1回】
【なつみかん　カミキリムシ類　1(原液)～1.5倍　樹幹の地際部から約30～40cmの高さまで塗布　6月～7月(産卵初期～産卵最盛期直前)(収穫120日)／1回】
・トラサイドA乳剤 ＜１Ｂ＞
【みかん　カミキリムシ類　200倍　樹幹部に十分散布　産卵最盛期～幼虫食入初期(収穫14日)／1回】
・モスピラン顆粒水溶剤 劇 ＜４Ａ＞

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。
注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

【かんきつ　200～400倍　主幹から株元に散布　14日／3回】

6 幼虫食入期（7月中旬～8月上旬）に食入孔内へ下記の薬剤を噴射する。

・園芸用キンチョールE ＜３Ａ＞

【かんきつ　食入部にノズルを差し込み、薬剤が食入部から流出するまで噴射する　14日／6回】

ミカンナガタマムシ

留意事項

1 年1回の発生で成虫は5月～10月頃に発生する。成虫最盛期は6月～7月である。

2 寒風害による落葉、干ばつの被害などで樹勢が弱ると発生しやすくなるので注意する。

3 ガットサイドSは、薬害のおそれがあるため、薬液が葉にかからないようにする。

4 ミクロデナポン水和剤85は、みかん以外のかんきつには適用がない。

防除方法

1 被害の激しい木（葉が変色し黄化しはじめた木）は伐採して、4月までにほ場外に持ち出し処分する。

2 成虫の発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・エクシレルSE ＜２８＞【かんきつ　5000倍　前日／3回】

・アクセルフロアブル ＜２２Ｂ＞【かんきつ　1000～2000 倍　7 日／3 回】

・ミクロデナポン水和剤 85 劇 ＜１Ａ＞【みかん　1700 倍　21 日／4 回】

3 5月～6月（成虫発生期直前）に下記の薬剤を塗布する。

・ガットサイドS ＜１Ｂ＞

【みかん　1(原液)～1.5倍　直径3cm以上の主枝、亜主枝、側枝に塗布　5月～6月(成虫発生期直前)(収穫90日)／1回】

【なつみかん　1(原液)～1.5倍　直径3cm以上の主枝、亜主枝、側枝に塗布　5月～6月(成虫発生期直前)(収穫120日)／1回】

ミカンハダニ

留意事項

1 冬期のマシン油剤散布によりミカンハダニだけでなくミカンサビダニ、カイガラムシ類（ロウムシ類に対する効果は低い）を防除することができる。

2 樹勢が弱っている場合は、冬期のマシン油剤散布で薬害を生じやすいので、3月中～下旬に成分97%製剤のマシン油剤を散布する方がよい。

3 マシン油剤は6月中～下旬にも使用できるが、果実に油浸が生じることがある。

4 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

5 薬液は葉裏によくかかるように散布すると効果が高い。

防除方法

1 他の病害虫との同時防除に配慮しつつ、発生初期の防除に重点を置く。

2 越冬期（12月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。

【マシン油剤　成分95%】

・機械油乳剤95、マシン油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞
【かんきつ　ハダニ類の越冬卵　30～45倍　冬期／－】

【マシン油剤　成分97%】

・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　60～80倍　冬期(12月～3月)／－】
・スプレーオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　ハダニ類　50～80倍　12月～3月／－】
・アタックオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　60～80倍　12月～3月／－】
・トモノールS ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　ハダニ類　60～80倍　12月～3月／－】

3 6月中～下旬に下記の薬剤を散布する。

【マシン油剤　成分97%】

・ハーベストオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　150～200倍　夏期(6月～7月中旬)／－】
・スプレーオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　ハダニ類　100～200倍　4月～10月／－】
・アタックオイル ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　100～400倍　4月～10月／－】
・トモノールS ＜ＵＮＭ＞【かんきつ　ハダニ類　100～200倍　4月～5月、夏期／－】

4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

・スターマイトプラスフロアブル 劇 ＜２５Ａ＞ ＜２１Ａ＞
【かんきつ　1000倍　7日／1回】
・マイトコーネフロアブル ＜２０Ｄ＞【かんきつ　1000～1500倍　7日／1回】
・コロマイト水和剤 ＜６＞【かんきつ　ハダニ類　2000倍　7日／2回】
・ダニコングフロアブル ＜２５Ｂ＞【かんきつ　2000～4000倍　前日／1回】
・ダニエモンフロアブル ＜２３＞【かんきつ　4000～6000倍　7日／1回】

ミカンサビダニ

留意事項

1 7月に薬剤を散布しても被害が発生するほ場では、9月上～中旬に再散布する。

2 マシン油剤散布に当たっての注意はミカンハダニの項と同じ。

3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

4 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤はかぶれに注意する。

5 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤の成分マンゼブの総使用回数は4回以内。

防除方法

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

1 越冬期に下記の薬剤を散布する。

【マシン油剤　成分95%】

・機械油乳剤95、マシン油乳剤95 ＜ＵＮＭ＞

【かんきつ　サビダニ　30～45倍　冬期／－】

2 発生の初期（7月）に下記の薬剤を散布する。

・ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤 ＜ＵＮ＞

【みかん　1000倍　30日／4回】

【かんきつ（除みかん）　1000倍　90日／4回】

・エムダイファー水和剤 ＜ＵＮ＞

【みかん　1000倍　60日／2回】

【かんきつ（除みかん）　1000倍　90日／2回】

3 ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤、エムダイファー水和剤に対して薬剤抵抗性が生じている地域では、7月中旬に下記の薬剤を散布する。

・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【かんきつ　2000～6000倍　前日／2回】

・ダニエモンフロアブル ＜２３＞【かんきつ　4000～6000倍　7日／1回】

・コロマイト水和剤 ＜６＞【かんきつ　2000～3000倍　7日／2回】

・ハチハチフロアブル 劇 ＜２１Ａ＞

【かんきつ　サビダニ類　2000～3000倍　前日／2回】

チャノホコリダニ

留意事項

1 例年、被害が発生する園では、落弁期直後～幼果期に防除を行う。

2 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

防除方法

1 新梢や果実の被害を認めたら下記のいずれかの薬剤を散布する。

・コテツフロアブル 劇 ＜１３＞【かんきつ　2000～6000倍　前日／2回】

・スターマイトプラスフロアブル 劇 ＜２５Ａ＞ ＜２１Ａ＞

【かんきつ　1000倍　7日／1回】

・コロマイト水和剤 ＜６＞【かんきつ　2000倍　7日／2回】

注１：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注２：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。